

遺跡詳細分布調査報告書

大東町の遺跡 V

—篠淵・塩田—

1993年3月

島根県
大東町教育委員会

序 文

この度、昭和63年度より5年次に亘って実施した大東町全域の遺跡詳細分布調査が、国及び県の補助を受けながら本年度で完了しました。その結果、当初、一般に知られていた遺跡が100箇所程度であったのが、300箇所にも及び、貴重な資料を得ることができました。

大東町は、出雲地方の中央に位置し、記紀や出雲風土記にみられるように、古代から数多くの伝説や記述に恵まれた土地であります。このような地域を実地に調査してみると興味深いことでもあります、また、発見された文化財を保存していくことも、現代に生きる町民に課せられた責務であります。この資料をもとに、更に、調査研究が進み、祖先の生活の跡をたどりながら、合理的な保存の方法が模索され、調和のとれた開発がすすめられることを念願するものであります。

この報告書が、今後、有効適切に活用され、町民各位の文化財に対する関心が更に深まり、保護しようとする意識が一層高まることを期待すると共に、「八雲立つ すがすがしの里」として、豊かな文化の町を志向する大東町の町づくりのために生かされるよう願ってやみません。

この調査に、適切なご指導、ご援助をいただいた県文化課の皆様に心から敬意を表すると共に、献身的にご協力をいただいた町、地元の関係者各位に対し、深く感謝申し上げる次第であります。

平成5年3月

大東町教育委員会

教育長 小川喜義

例　　言

1. 本書は大東町教育委員会が、平成4年度国・県の補助を受けて行った大東町塙田・篠淵地区遺跡詳細分布調査及び試掘調査の概要報告書である。
2. 調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 大東町教育委員会 教育長 小川喜義

調査指導 角田徳幸（島根県教育府文化課主事）

蓮岡法暉（島根県文化財保護指導委員）

調査者 杉原清一 藤原友子（島根県文化財保護指導委員）

事務局 別所武夫 三原英男 猪野 弘 嘉本史紀（大東町教育委員会）

3. 調査成果は分布図及び一覧表とし、さらに個別にカードを作製して向後の活用に備えた。遺跡番号は過年度に準じた。試掘調査は遺跡の範囲と性格の確認を目的として、長福寺古墓と中新出たたら跡について行った。

4. 分布調査は踏査による地表の表微観察によるもので、埋蔵文化財のすべてを網羅し得たとはいえない。また古墓は主として石塔に着目して調査を行ったものである。

5. これらの調査にあたっては、明治22年編成の『字切地図』（大東町行政文書）による字地名（本書に収録）及び口碑伝承等を参考とした。

また次の方々から情報や資料の提供、或は現地案内や作業等の協力を得た。記して謝意を表します。

塙田・篠淵地区各自治会 塙山公民館 村上栄一 大塚清雄 加藤幸徳 南部清正

安井 功 安井 茂 新田利夫 佐名木正好 勝部智明 大東町税務課 農林土木課

6. 本書に用いた地図は大東町農林土木課所管にかかる5千分の1地形図である。

7. 昭和63年度以来5か年次にわたりて行った大東町内の遺跡について一斉分布調査は今年度をもって終了する。

8. 本書の編集・執筆は調査者が行った。

目 次

序 文	教育長 小川喜義
篠淵・塙田地区遺跡一覧表	1
篠淵・塙田地区遺跡分布図	3
I 遺跡の分布概況	5
— 大字篠淵・大字塙田 —	
II 試掘調査の概要	5
A 長福寺古墓	5
B 中新田たら跡	8
III 主な遺跡	10
1 観文・弥生時代	10
2 古墳・奈良時代	10
3 中世の遺跡	10
4 古墓・古石塔	12
5 生産遺跡	13
小字地名一覧表	15
(補遺) 遺跡一覧表	20
図版	PL 1 ~ 3

遺 跡 数 一 覧 表

※ () 内は既知遺跡数

字 名	散布地	城 壕	古 墓	生 产 遗 蹤	寺 院 蹤	そ の 他	計
大字篠淵		1 (1)	2	3 (1)			6 (2)
大字塙田	2 (1)			11 (1)	1	2	16 (2)
計	2 (1)	1 (1)	2	14 (2)	1	2	22 (4)

遺跡一覧表

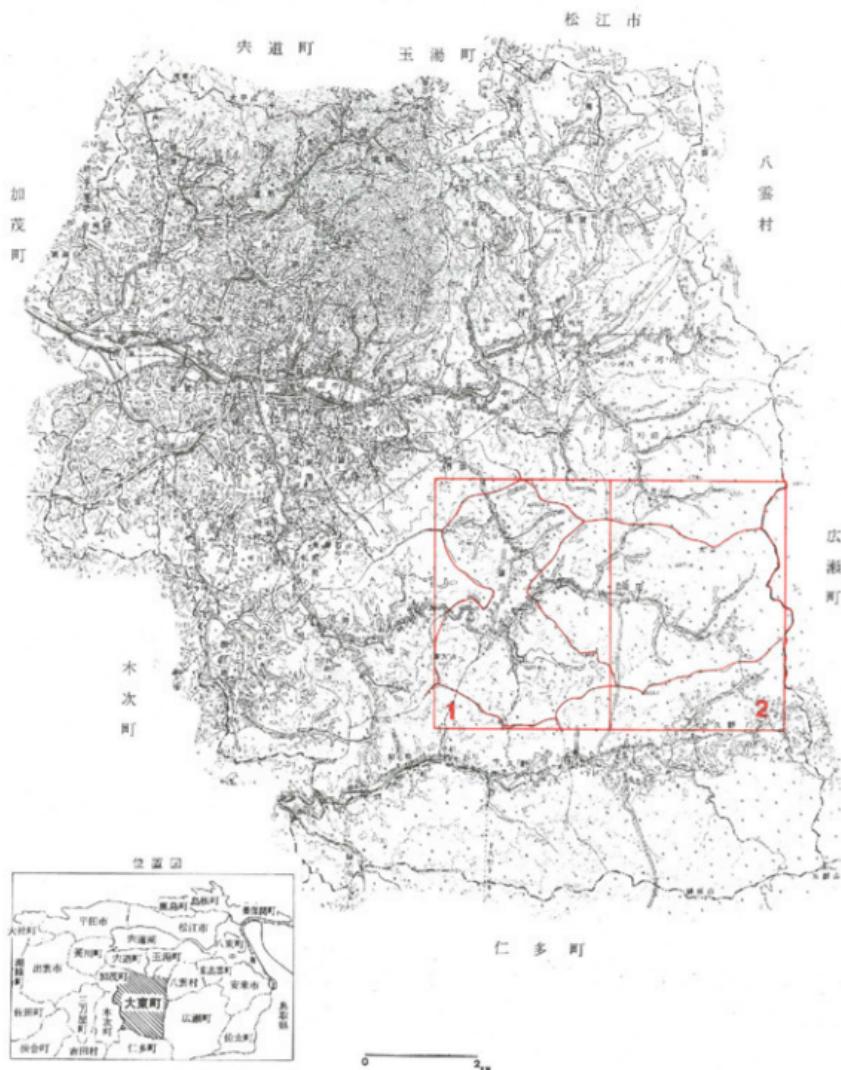
大字墓

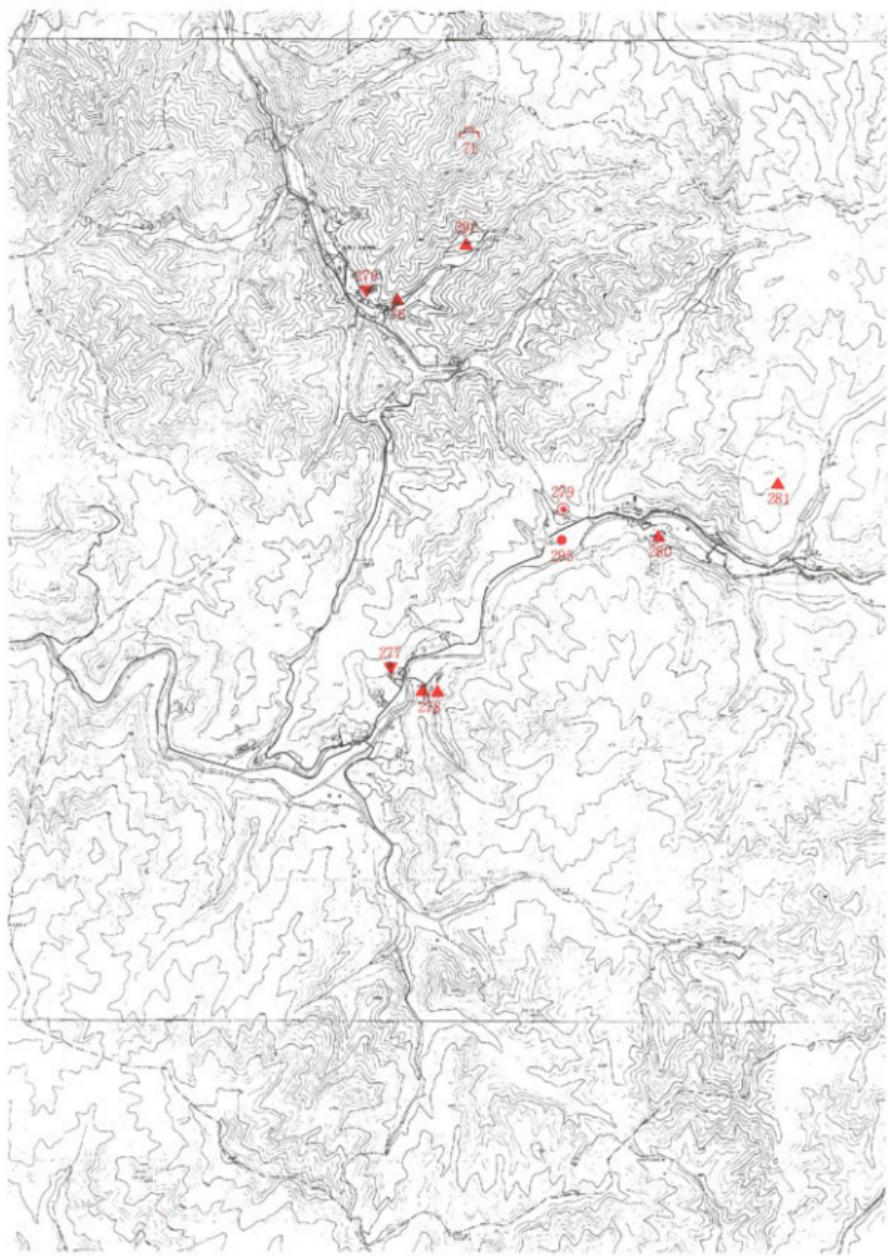
番号	種別	名 称	所在地(字)	現況	概 情
71	城 墓	平家の城跡	平家山	山 林	平家の城跡との伝承地 頂部はやや平坦なるも自然地形で人工面なし
276	古 墓	長福寺古墓	石畑ケ	墓・雜	臼長福寺緑辺の古墓 五輪塔・宝鏡印塔など 近世初期か
277	*	清瀧社の古石塔		神社境内	五輪塔・宝鏡印塔・茶臼片等の集積 付近の括か近くの小堂には石器(叩石)奉納あり
76	生産遺跡	蟹谷カナクソ製鉄跡	カナクソ	宅 地	丘陵端根部の狭い帯状地 かつて鉄洋を採掘出荷した現宅地 位置等特定できず 地名による
278	*	箱瀬鉄延製鉄跡	鉢窯 カジヤ畠	畠 畑	丘陵台状地 鉄洋散布 前方川寄りに鐵治跡あり 一連の造構
292	*	戸庭谷たら跡	鉢窯 カジヤ畠	旧耕地	戸庭谷中ほどの段状畠地付近 開闢地名多し 詳細不明

大字塙田

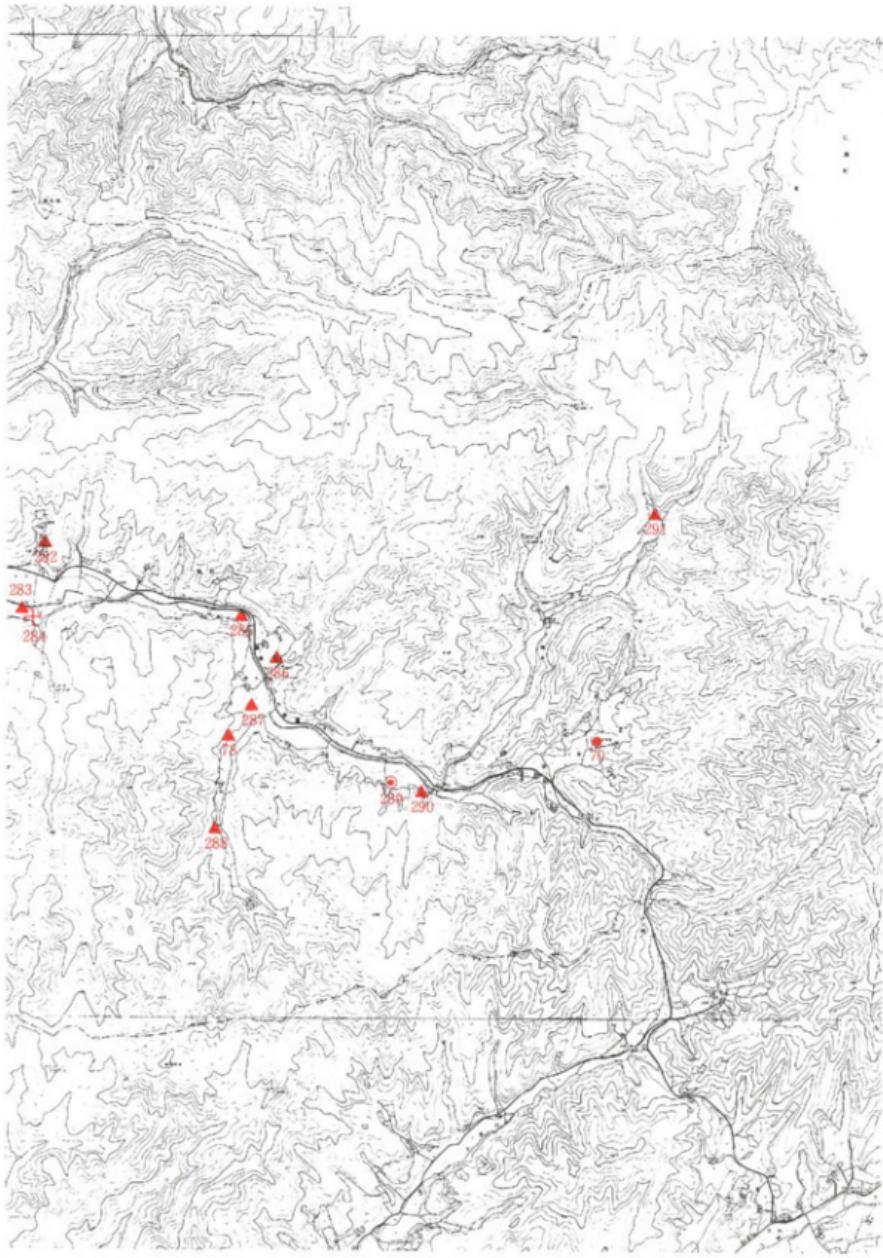
70	散 布 地	スクモ塙遺跡	スクモ塙	雜	小堂に石器(叩石)を奉納 付近の開拓で出土か
293	*	平ノ前石器出土地	平ノ前	水 田	水田より磨石採取
78	生産遺跡	家の脇鐵治跡	家の脇	旧宅・田	詳細不明 前方水田部に鐵治跡多しと
280	*	岩根たら跡	岩根	畠	鐵津散布 炉床不明 丘上の秋葉社に初鉄奉納近くの水田あたり鐵治跡という
281	*	宮谷横手塙跡	横手	山 林	小型の木炭窯 地山掘りぬき様式(穴窯とよぶ)
282	*	塙田鉢谷たら跡	西畑ケ	雜(旧宅)	高殿様式か 後背愛宕社に初鉄奉納
283	*	守谷戻たら跡	守ノ下モ	水 田	川岸の水田 水田下に鐵津多量埋没と 内容不明
285	*	塙田鉢床たら跡	伊床 伊原	水 田	阿用川沿いの水田 工事で消滅か 地名による
286	*	長三屋敷たら跡	長三屋敷	宅・畠	宅地内が高殿たら跡(久野石原氏系か8代目)
287	*	城ヶ谷戻たら跡		水 田	大部分削り去られて水田となっている かつて鐵津を採掘した 内容不明
288	*	塙田中新田たら跡	中新田	荒(旧田)	野たら様式か 内容不明
290	*	一里塙谷たら跡	一里塙谷	畠	7×6 m のテラスが炉床か 野たら様式か
291	*	橋谷奥たら跡	鉢床下タ	荒 地	旧水田でかなり広い範囲の山内か 炉床地点未確認 高殿たらか
284	寺 院 跡	正覚寺跡	寺床?	雜	道路敷で埋没 わざかに跡あり
279	和鏡出土地	平ノ上和鏡出土地	平ノ上ヘ	山 林	室町鏡出土 荒神神木の付近
289	經 塚	塙田の一里塙	一里塙	畠	マウンド6 m、高1.5m 銅製鏡出土 久野越し道

大東町管内図





分布図（1）



分布図（2）

I 遺跡の分布概況

篠淵・塙田地区は大東町内の東にあたり広瀬町と界を接し、赤川支流阿用川及び清田川の上流域である。田海潮村に属し、江戸時代までは笹谷・箱淵・塙田の三村であった。

この地域ではわずかに縄文時代の石器が採取されているほかは、ほとんどが近世の遺跡特に製鉄遺跡の多い地域である。

1. 大字篠淵

山麓や谷間入口部などに近世のたたら製鉄の跡が散在する。

また笹谷・箱淵とも集落中心地付近には五輪塔墓がみられ、寺院跡や神社地にまとめられているものもある。

このほか小字地名に『城』の付くところがあり、また伝承地として半家山が挙げられているが、いずれも明らかな遺構は見当らなかった。

2. 大字塙田

最上流部の小字スクモ塙では小堂の中に縄文時代の石器（叩石・磨石）が納めてあった。おそらく付近の開拓によって出土したものであろうが伝承ではなく、かつては須恵器が出土したとされる。

製鉄遺跡は地区のほぼ全域にわたって点在し、大規模な所も多い。また炉床と推定されるところが宅地となっている場合もあり、特徴的である。このほかにも地名にたたら、カジなど多数みられ、近世には製鉄の盛行したところといえよう。

また荒神神木付近から和鏡の出土もあった。

II 試掘調査の概要

A. 長福寺古墓

1. 立 地

この古墓は笹谷の平家山から南へ長く突出する支尾根最先端に位置する。

狭い谷間の入口あたりの段地形には、小字地名「旧長福寺」「西仏」「シャカケ廻」など寺院跡を示すところがあり、ここには現在「香積寺」と号して堂宇が建てられている。100m余りの山麓には産土神等々呂吉神社があり、このあたりが集落のほぼ中心部にあたる。

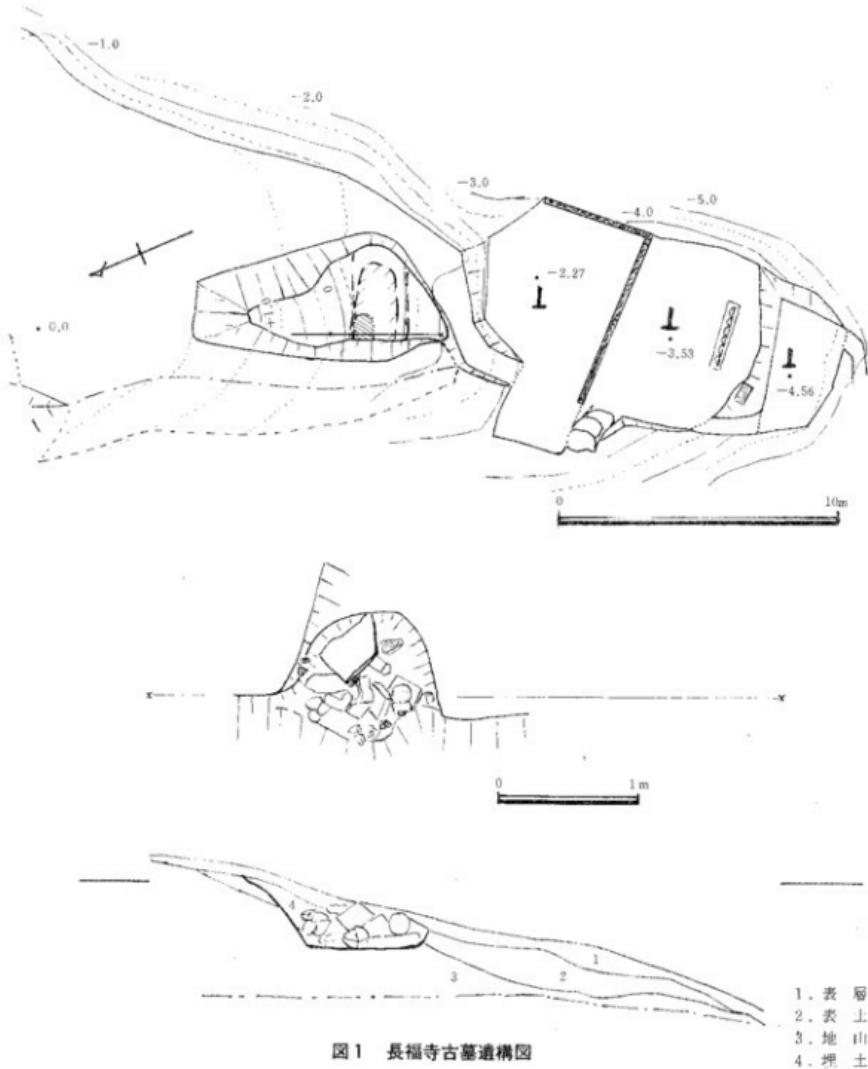


図1 長福寺古墳遺構図

「旧長福寺」の付近には墓地が多く、山腹又は谷脇などに狭小な削平段を設け、積石塚などもみられる。この一隅で重機により掘削していくと五輪塔片が出土した。届出によりこの部分の発掘調査を行った。

2. 遺構

調査地点は字「西仏」の上方にあたる字「石畠ヶ」の墓地続きの地点で、約 2×4 mの小削平段状の部分である。

狭い尾根端で、前方から3段の現行墓地があり、最下段には宝鏡印塔2基1対も祀られている。

五輪塔片の発見状況は、表土を軽く剝いだところで多数の石材が転がり出たという。そして破断面にはまだ石塔片が露呈している。そこで残りの 1.5×2 mほどの平坦面につき発掘調査した。

草の根茎ばかりの表土を徐々と、 1.1×1.0 m、深さ35cmの半蔵された浅い皿状の堀り込みに、石塔片が一括投入されていただけで、埋葬された墓壙は全くなかった。本来の堀り込みは 1.1×1.5 m位であったろうか。覆土は明瞭ではない。

石塔片は凝灰岩（キマチ石）製で、一部破損したり割れたりしたものもあるが、すべて五輪塔の部分であった。しかも坑内下底に宝珠部があり上方に水輪があるなど、乱雑な投入とみられる状況で整然とはなっていなかった。またこれと共に基盤として用いた板状自然石も混在していた。

この埋納坑の一端を重機で削ったので、石材が多数出土したものであった。

3. 出土した石塔について

判別した石塔部分別の数は次のようである。

宝珠部 12 笠部 4 胴部(水輪) 8 台部(地輪) 3

基盤石(山石) 3

宝珠部(空・風輪)
は高さ17~19cm、直径
14~16cm、円筒形で、
請花と宝珠部は幅1.5cm
ほどの浅い溝を巡らせ
て区画し、宝珠部は平
らでわずかな丸味とし、
いずれも著しく簡略化
した様式である。柄は
丸い。

笠部(火輪)は幅24

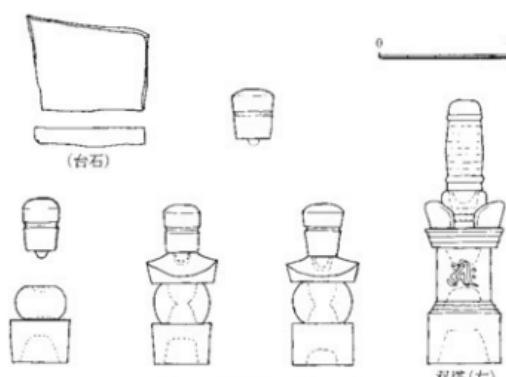


図2 長福寺古墓の石塔

～26cm、高さ9～11cm、薄い軒は強く反り、軒端は強く外傾して、全体として極く薄い造りである。納穴は四角である。

胴部（水輪）は2種に分けられる。その1つは直径18cm、高さ12cmほどの小形で、やや扁平球形をなす。上・下面是わずかに削り凹ませて据りしている。その2は直径20～22cm、高さ14～15cmのやや大形で球状に近いもの。最も相異する点は上・下面から大きく深く抉り込んで連結するもので、いわば中空の構造をしているものである。

台部（地輪）も2種類がある。その1つは幅22cm、高さ15cmの長方形で、下面から約5cmの抉り込みを造るもの。その2は高さ14～15cm、上幅22cm、下幅19～20cmの逆台形をなし、下面からの抉り込みは9～10cmと深く大きいものである。

このほか、この石塔を建てる基盤として自然石の板状のもの又は平面のあるものが用いられている。

これを復元的に組合せると、最も特徴的な点は逆台形の台に中空の水輪をおき、極く薄手で平板状の笠には円筒状の宝珠が載るもので、この姿から近世もかなり下る時期の製作とみられる。特に水輪・地輪の抉り込み空洞部分は何らかの封納を思わせる。

4. むすび

以上のように五輪塔片は一括して埋納されていたもので、12基以上が数えられた。この出土地点の前方墓地内にある宝鏡印塔も省略された近世の様式で、石材も同じことからすると、この現行墓地は古くからの墓地であったところを整理改修したものと思われ、その際に旧墓標の五輪塔を片付け、一括して上方縁辺部に埋納したものと推察される。そして供養塔であった1対の宝鏡印塔はそのまま墓地内に残されたものであろう。

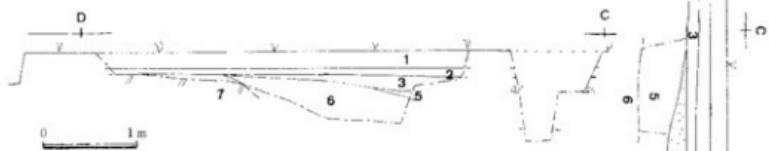
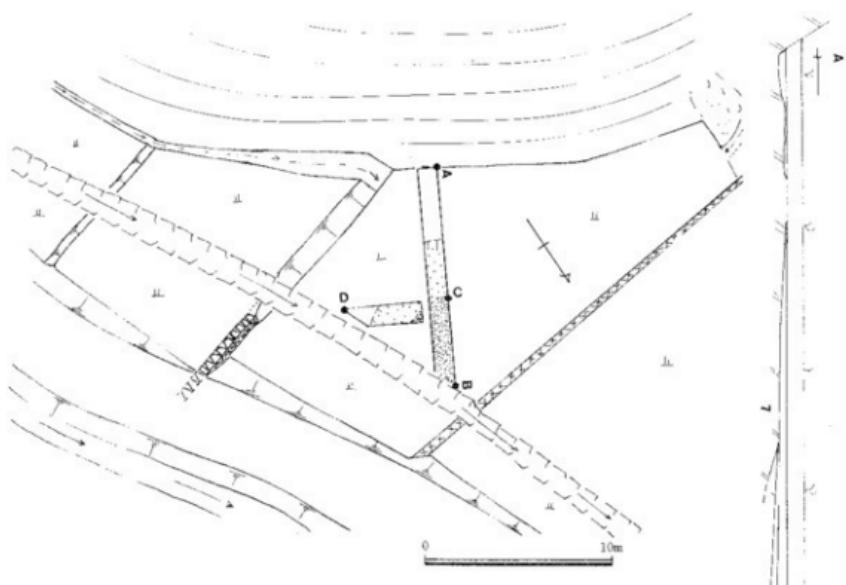
因みに享保年中に編纂された『雲陽誌』には、『篠谷・長福寺・桜宗・本尊觀音、とあり、江戸時代半ばまでは長福寺なる寺院が存在しており、これに関与する墓地と思われる。

B. 中新田たたら跡

1. 立 地

このたたら跡は、谷間の中間で谷の分岐する部分の小さな舌状地形の水田で、大字塙田字中新田に所在する。該当する水田は約20×20mの三角形をなし、南西は丘陵端の急な崖に向している。

耕作土の下には鉄洋を含む粉炭土が、やや固いベース上に層状に堆積しているのがみられた。



- 1. 耕作土
- 2. 耕盤
- 3. 鋼鐵層
- 4. 粉炭土鉄滓まじり
- 5. 堆め立て土(明褐色)
- 6. 黒褐色土炭まじり
- 7. 糜質地山

図3 中新田たたら跡調査図

2. 調査概要

試掘トレンチは地形の方向と、それに直交する2本を設け、幅1mとした。

その結果、粉炭土に鉄滓が混入した堆積層が北端約4mほどに認められたが、丘麓寄りの部分は地山を大きく削り出して水田に拓かれていて、遺構中心部は消滅していた。

粉炭層はたたらの排滓部分に相当するとみられ、ベースには焼熱を受けた面は認められなかった。鉄滓は流動性が悪く多孔質で、鏽の発生が多い。炉壁材にはワラスサの混入が観察された。

3. むすび

トレンチ掘りの観察では、炉床部分は水田造成・整備によって既に消滅しており、排滓部下端付近が帶状に一部分残存するものとみられる。

全面発掘調査でないため、面的な規模は不明であるが、鉄滓は収鉄効率の低い低温操業を悪化せるものであり、炉壁材にはスサの混入がみられることから、このたたら製鉄は近世以前のもので、中世的な野だら操業が推察される。

全面発掘調査を行えばさらに何ほどかの知見が得られることであろう。

III 主な遺跡

1. 繩文・弥生時代

篠淵・塩田地区は、縄文時代の生活の場として相応の地帯であると思われるが、この時代の遺跡は明らかでない。が、数点の石器はみられる。

塩田ではスクモ塚、笛谷では清瀧社近くの地蔵堂の中に、それぞれ縄文時代の叩石・磨石が数点納められていた。また塩田字『平』付近出土の磨石もある。前者の出土地点や採取者は全く判らないが、極く近いところで採取されたものと想像される。

2. 古墳・奈良時代

記録によると塩田字スクモ塚地内で須恵器が採取されたとあるが、その所在は不明である。篠淵・塩田地区ではこのほかに知られたものは全くなく空白である。

3. 中世の遺跡

平家の城跡：雲陽誌には中世の山城として笛谷の項に「古城…里童平家の城といふ、城主しぬず、山頭に大岩あり馬の蹄の跡なりとて凹なる所三十ばかりあり、由来分明ならず」

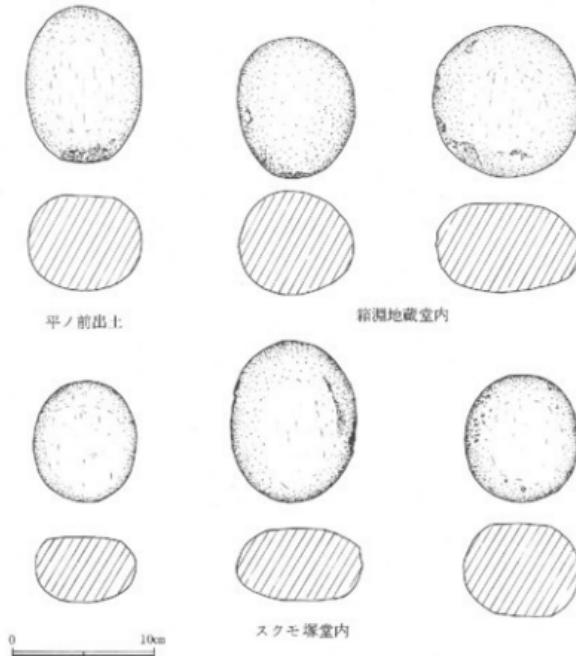


図4 石 器

とし、また皇国地誌にも同様の記載があるが、現地の踏査では頂上部は自然の細長い平坦面であり人工削平の跡は見当らなかった。西方の大東町や赤川下流方向への眺望には勝れており、物見として利用されたところであろうか。しかし城跡とは言い難いものである。

このほか小字地名をみると、箱瀬では『下モ城ヶ廻・上ミ城ヶ廻』があり、塩田では『城ヶ谷』や『蛇貫(城抜け)』がある。しかしその付近や後背丘陵には何らの遺構も見当らなかった。何に由来する地名か疑問が残る。

塩田の一里塚：塩田地区には一里塚がある。刈畠から塩田を経て上久野への旧道筋にあたり、家号一里塚の家宅前の畑の中にある小マウンドである。高さ約1.5m、直径約6mで、頂面に墓石らしい石材が埋没している。昭和20年代頃、この裾部の畑から銅製茶筒状のもの（経筒か）が出土したとのことである。

平ノ上和鏡出土地：塩田、村上栄市氏が採取した和鏡一面がある。村上家後背の丘陵端に楠木を神木とする荒神があり、その裾部の崩壊土中から20数年以前採取したもの。荒神に祀られ埋納してあったものであろうか。鏡は菊花紋様で室町時代のものである。

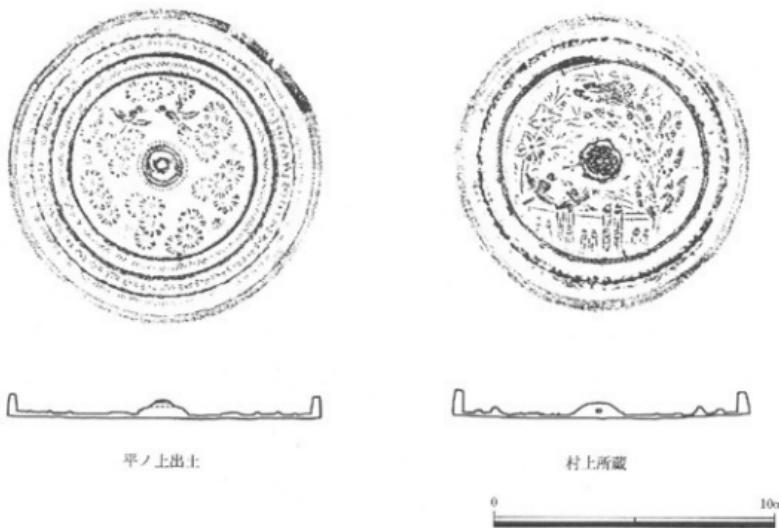


図5 和 鏡

4. 古墓・古石塔

笛谷中心部の旧長福寺あたりと箱瀬の中心部清瀧社付近には古墓がある。また塩田では正覚寺（元地）付近にもあったようだが明確ではない。

いずれもキマチ石製の五輪塔・宝鏡印塔などであるが、様式からみて近世前期頃とみられ、中世に遡るものは見当らない。

清瀧社の古石塔：南に面した北較約広い山麓緩斜面のところで、清瀧神社の社殿西側には古石塔片等が積んである。付近にあった古墓のものであろう。この中には茶臼の破片もみられる。五輪塔は軒反りが強く、円筒形の宝珠部で○印を刻み、縦丈55cm程度の小形である。宝鏡印塔は相輪片と屋蓋部のみであるが、軒厚く隅脚突起も丈低く省階式で、格狭間も明瞭でない。相輪も円筒状に太い凹線を巡らせる手法であり、近世に降るものとみられる。茶臼片は凝灰岩質の材で、推定直徑34cmほどの品であり、これも近世の作であろう。臼面は著しく磨耗している。

清瀧神社から約250m上流、道路の急カーブする屋根端に墓地がある。この墓地にも五輪塔片の集積がある。石材の風化が著しく計測はできなかった。

また清瀧神社の隣の地蔵堂には繩文時代の叩石が納めてあるなど、このあたりでは今後も遺物等が発見される可能性のあるところである。

正覚寺跡：大仁農道の敷地として大部分が埋没し、堂宇は向いの大仙社地へ移された。跡

地にはわずかに石碑と墓石が残っている。移された堂のほとりにはキマチ石製五輪塔片がある。笠はやや薄く、軒は強く反り、円筒状の宝珠である。近世に降る時期のものである。

長福寺古墓：笛谷中心

部の丘陵突端付近に小字地名「旧長福寺」、「西仏」などがみられる。現在ここに「香積寺」と号して堂が建てられている。付近には古墓が点在していたようで、現行墓地の傍らに宝篋印塔1対や五輪塔片の集積されたところがあった。特に五輪塔片の集積部は発掘調査を行ったので別項に記述した。

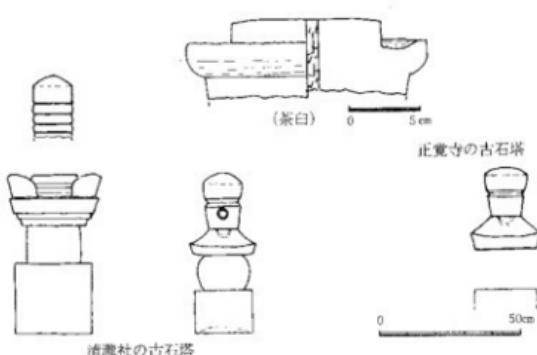


図6 石塔

5. 生産遺跡

製鉄遺跡は特に塩田地区に多い。これは隣接する大字上久野地区と同じ様相であり、相互関連しているものである。中世以前のたら製鉄もありうると思われるが、主として近世の大形たら跡及びそれに関与する大鋳造跡が認められる。

次の近世地方文書（村上栄市所蔵文書）は塩田地区の製鉄との関わりを示していく興味深いものである。取てここに冒頭の一部を引用する。

（題） 塩田村部（分け）山新山林人別譲定運料帳

弘化二年（1845）年午四月

常村新山尤米鉄山二面村山ニ隸處、當年迄百三拾年以前、正徳六（1716）年中一月村中鐵山不殊懲人別相談之上、仁多郡竹崎村ト藏屋甚兵衛、當郡上久野村表七郎右衛門両人江、代米七拾石ニして賣渡、尤鉄山不殊之内ニ而貰得拾四ヶ所廢林として貰山證文ニ致し取返し、歛り者前文代米ニ而両人江買諸罷在候處、基以村方差圖ニ付、七拾四年目寛政元（1789）戌一月六節原吉右衛門心配を以、代銀四貫目ニして吉右衛門与右衛門両人當（題）テ證文ヲ以村方江買灰、夫ヨリ以後右之内ヲ以、鶴田地塊（こやし）山、人別舊等ニ買受候人別之内ヨリ備置候ヲ野山ト号シ罷在候處

（以下略）

これによると「塩田地区の全山林はもともと村有の鉄山（たら用の木炭林）であったが、村中相談の上正徳6（1716）年仁多郡竹崎村卜藏氏及び大原郡上久野村表（いずれも鉄師）へ全部売渡した。しかし村人は自分の生活や農耕に不便になり困ったので、その山林のうち山裾部分24ヶ所の腰林を貢山として取り返した。年月を経て寛政元（1789）年には上久野の六郎原・塩田向田が中心となってこの山林を買戻し、草刈原・薪山は個人に分けて売り、その残りは共有の野山とした。」とある。またこれ以後さらに細かく取り決めて個人有地に分割していくのである。

この流れをたらの歴史と付き合せてみると、中世以来の小規模な野だたら様式から大秤吹子の発明によって大形の高殿たら様式に変わるのが元禄～正徳年間（1700年頃）であり、それに伴って木炭の需要が極端に増大した時である。出雲国内大手の鉄師である卜藏氏もこれらの事情で塩田地区の山林まで入手したのであろう。上久野表も從来から鉄業を営んでいたものと思われ、このころ經營を拡大したと思われる。やがて仁多郡雨川村鉄師石原氏が上久野地区へ進出して主導権をとり、次いで塩田地区へも張り出してきて、これが塩田地区の石原氏の始まりとなるようだ。そして寛政元（1789）年には塩田・上久野村としての石原氏らによって村の鉄山山林買戻しとなったとみられる。

以上からみて塩田地区は上久野村と一連で、古くは中世以来野だたらは細々あったと思われるが、近世の企業的たらの製鉄は18世紀初め頃村外の經營者によって始まり、やがて18世紀末には村内の主要者によって引き離がれ、幕末近くまで続くものと考えられる。

なお、篠淵地区もこれに準じた動向であったと想像される。

以下主な地点について列挙する。

塩田中新田たら跡：城ヶ谷から南へ本谷の行き詰まる旧水田にある。およそ20×20mの範囲で、耕作土下に焼け固まった面が埋没していて、鉄滓等が散布する。炉壁片もあり、これにはスサの混入が認められることから、やや古い様式のたら跡が推察される。

塩田鉢谷たら跡：家号「西畑ケ」の旧宅地跡が炉床である。谷川に面した小高い平坦面で前方斜面には鉄滓が夥しい。後背尾根上に祀ってある愛宕社の小祠には銑鉄が奉納してある。初銑（はつはな）とよんで、たらで最初の出銑を金屋子神に奉納するものである。奉納札等記載したものはなく年代は不明だが、このたらで生産されたものと思われる。範囲・規模が大きく近世の高殿様式のたら跡である。

岩根たら跡：塩田小学校後方の谷入口部で家号「岩根」の後背畠の段30×30mがたら跡と推定される。鉄滓が多く散布している。岩頭の張り出す尾根上には秋葉社があり、ここに初銑が奉納されている。奉納印等は不明。なお、前方を流れる阿用川のほとり、

現水田のあたりに鍛冶場があったとい伝えられている。大鍛冶を併置した近世の高殿様式のたたら跡と思われる。

釜源鉢運製鉄跡：清瀧神社の向いにある山麓部で、家号『藏本』(西村家)と『大下モ』(石川家)の間の後背一段高い畠地(20×15m)がたたら炉床部と推定される。かつて前方宅地あたりから鉄滓を探掘出荷したという。炉壁片にはスサを混入するものが見られる。

また石川宅前方阿用川寄りの畠地畔には鍛冶津が散布しており、この畠地が大鍛冶跡と判明した。

これらは一連で、たたらに大鍛冶を併置した製鉄跡である。年代は不明であるが、規模からして近世と思われる。

宮谷横手炭窯跡：大仁農道を塙田交差点から宮谷へ入ってすぐ西側の山にあり、急な山腹を登りつめて頂上から約30m下、わずかな瘤状地形に掘り込んで造った、掘り抜き様式の炭焼窯である。この窯は地形の等高線に沿って造られており、窯床は卵形をなし、長さ3.3m、幅1.2mで、最奥部から煙口を抉り抜き穴で高さ1.2mの地表へ導くもの。小規模で自家用炭の製造用であったろう。さらに焚口部の前には作業庭面が約9m付く。窯体は陥没破損している。操業時の伝承はなく明治以前と思われる。

当地で『穴窯』とよぶのはこの様式であろうか。現存事例は少ないようだ。

小字地名一覧表

大字篠淵

切削番号	小字地名
1	御崎谷尻リ 仁右門田 大平
2	ケヤケ以後 御崎谷 家ノ上ヘ 御崎谷家ノ平 御崎谷道下タ 御崎谷尻リ 御崎谷釜トコドモ平
3	釜ノ以後 大以後 大以後上ミ平 大以後下モ平 御崎谷 杉ノ以後 家ノ向 平家平 平家山 大龜横手 猿横手 新ナシ
4	大以後尻リ濃廣尻リ 御崎谷釜トコ上ミ平 御崎谷釜トコ 御崎谷尻リ 濃廣尻リ上ミノソ子 御崎谷濃廣 濃廣 鍛冶屋 鍛冶屋平 鍛冶屋ウネ 家ノ上ヘ 鍛冶屋前小屋 長畑ケ下モ 長畑ケ 長畑ケ道下タ 長畑道上ヘ 上屋敷 西ノ廻井手ドモ 西ノ廻井手上ミ 宮ノ下モ 宮床 宮ノ上ミ 宮ノ上 宮ノ廻 西ノ廻
5	清水以後 中ノ以後 中ノ以後尻リ 赤城道上ヘ 赤制 大田道上ヘ 大田 コウモリ岩下モノソ子 コウモリ岩 仁右衛門田 コウモリ岩尻リ上ミノソ子 山ノ神ウ子 山ノ神 山ノ神下モノソ子 山ノ神以後 山ノ神ウ子 山ノ神 山神下モソ子 山ノ神以後 山ノ神上 老本松上エ 老本松以後 老本松 老田横手上ヘ 横手上ヘ
6	老本松 老田前 老田下モ 老田道下タ 大以後 老田家ノ下モ 老田大以後 老田上ヘ 老稻田 老田家ノ上ヘ 中田上ヘ 老稻山上ミ 下早稻山上ヘ 下早田 小廻 有道屋家ノ下モ向 釜ヶ廻道上ヘ 中田 道下タ 釜ヶ廻道下タ 家ノ向 家ノ脇 コウモリ岩 ムクロケ谷松山下タ ムクロケ谷 ムクロケ谷ウ子 有通ムクロケ谷 有通屋家ノ上ヘ 有通屋上ヘ 有通屋 庭田 小堀リ 姫ケ丸 上ノソラ上ミノソ子 上ノソラ杉ノ木下タ 上ヘノソラ 有通屋上ヘノソラ 隠居上ヘ 隠居 家ノ前 隠居前 隠居家ノ上ヘソ子 前ノ堀リ 隠居家ノ前

- 有通屋奥 上畠上へ 隠居奥松木以後 隠居篠原道上へ 小原ノ上へ 家ノ奥
 7 鐵治屋山 小堀り 中田上へ 井闇ノ上尻り 宮田 井闇尻り上ミ 向ノ谷 向ノ谷上へ 有通屋向 前ノ堀リ
 中黒谷下平 家ノ向 中黒谷尻り右平 境ノ以後 喜右衛門以後 中黒谷右平 中黒谷桃ノ木以後 中黒谷 中黒谷奥
 8 高スガ奥本谷 本谷尻リ 高スガ奥本谷左平 高スガ奥 高スガ奥繩手トダ 宮田 ダイダラ以後 家ノ谷 家ノ谷房
 細田ケ廻 横田ケ廻上以後 横田ケ廻下以後 鐵治屋山平
 9 御崎谷尻リ 家ノ前下モ 家ノ前 祖母神前 祖母神權右衛山 鐵治屋向 早田下向 早田向岩棚ノ下モ
 早田向岩ノ下タ 早田向 早田向岩ノ上ミ 善休田 竹ノ内 善休田家ノ上へ 善休田上へ 善休田下モノ以後
 早田家ノ向 善休田上以後 大平 来源寺 来源寺道上へ カクレ以後 下ヶ市上へ 下ヶ市 下ヶ市前 向ヶ市
 向ヶ市上へ 向ヶ市廻 向ヶ市橋下モ 家ノ向 平ノケ市 伯母ケ廻 鐵治屋前 長知前 宮ノ下モ 長細ケ道下タ
 新庄屋 宮ノ前 宮ノ上ミ 宮田 家ノ下道下タ 家ノ前
 10 ケ市道下タ 平ノケ市前 ケ市道上へ ケ市道下タ上へ 平ノケ市 平ノケ市下モ道上へ 平ノケ市下モ 西佛
 家ノ前、石畳ケ 石畳ケソ子 平ノケ市家ノ上へ 家ノ上へ 石畳ケ向 家ノ奥
 11 山根 家ノ上ヘ 山根下モ 向ノ奥 向廻下モ 小谷下モ平 小谷 小谷上ミ平 姉ケ谷 向奥右平 茶ノ木以後
 細田ケ廻 横田 柳ケ以後 杉山ノ上ヘ 堀切尻リ
 12 堀切 堀切奥 向ノ奥 向ノ奥廻切 向ノ奥沢田尻リ
 13 向ノ奥澤田 野山ケ谷 向ノ奥 堀切尻向 杉山ノ向 長畠ケ以後 向ノ奥向堀釜 向ノ奥堀釜
 14 畑田 畑田上へ 向奥向平 向ノ奥 向大成 向奥川向 山崎 山崎家ノ上へ 家ノ前 東隱居 新宅 段原
 竹ノ元 家ノ脇 家ノ上 家ノドモ 家内廻 家内廻家ノ上ミ 家ノ上ヘ 小野 小野尻リ 岐ノ後
 15 岐ノ後 後谷尻リ 後谷 後谷道上へ 後谷竹ノ以後 後谷ヨジキ 後谷烟ケ以後
 16 横田ケ廻 竹ノ本口 横ノ木廻 横ノ木廻下モ平 横ノ木廻上平 横ノ木廻西平 家ノ向 岐ノ後 後谷田ノ上ヘ
 与三兵衛田 安ヶ廻烟ノ下モ 安ヶ廻烟ノ上ミ奥 安ヶ廻煙ノ以後 安ヶ廻奥 安ヶ廻高馬ケ原
 安ヶ廻 松ヶ廻右平 松ヶ廻 松ヶ廻中ソ子 松ヶ廻字宿 松ヶ廻尻リ 松ヶ廻ドモ切 松ヶ廻下モノ切上ミ
 後谷新田堀リ 後谷 トウメン 兼ヶ廻下モ平 兼ヶ廻上ミ平 兼ヶ廻下モ平奥 兼ヶ廻
 17 寺ノ前 寺床 旧長福寺 奥ノ崎 カナクソ カナクソ上ヘ 元寺床土上ヘ シャカケ廻 家ノ上ヘ 掛ノ手
 榆ノ木以後 遊烟ケ 蜜烟ケ家下モ 家ノ上ヘ 遊烟家ノ上 遊烟ケ上ヘ 大石ケ本 面田上ヘ 一ツ久保 鐵治屋
 鐵治屋壇上ヘ 元屋敷上ミ以後 元屋敷以後 壇敷以後 大石ケ廻 向ノウ子 壇ノウ子成 壇ノドモ平 壇ウ子
 東ノ廻 家ノ脇 新屋敷 東 東廻烟ケ 東ノ上 紙屋 紙屋下モ切 紙屋上ミ 紙屋上ヘ 新宅向 家ノ向
 段原ウ子 七地佛 立平 稲干場 安徳 坂根 中尾 石畳ケ以後尻リ 石畳ケ
 18 梅ノ木以後尻リ 豊久保 三ツ久保 大烟ケ 家ノ前 鈴ノ奥サキ 鈴ノ奥家ノ上 大久保田 大久保田上ヘ
 鈴ノ奥 下堂床 下堂床尻リ 堂床 上堂床 源五田下モ 源五田
 19 源五田 平家山 登立 下モノ以後尻リ 下モノ以後上ミソソ子 ドモノ以後 池ノ以後 イノムトノ以後 金畠下平
 金堀リ 金堀下モ平 平兵衛壇敷尻リ 平兵衛壇敷 戸抵下 戸抵 長ウ子尻リ 梨越
 20 戸抵 家ノ前 戸抵下モ 戸抵家ノ上ソソト 戸抵家ノ上ヘ 家ノ上ヘ以後 家ノ上ヘ 家ノ下モ以後 長宇根廻
 境ノ以後尻リ 境ノ以後 長宇根尻リ 戸抵田 小屋ケ廻 長ウ子尻向 家ノ奥 家ノ上ミ 竹賀ノ上ミ
 家ノ向 大谷 横手下 横手下上 大谷横手 横手下タ 大谷灘ノ上ヘ 大谷奥 灘ノ上ヘ 老本松 大谷奥灘ノ上ヘ
 八兵衛以後 梅ノ木以後 梅ノ木以後上 下梅ノ木以後
 21 鈴ノ向 ソリノ以後 竹添 ソリノ烟 丸山 石畳ケ以後 又兵衛田上ヘ 又兵衛田 真鶴田 間鶴田 戸抵谷向
 向ノ以後
 22 大谷裏 游出 大谷灘山 元屋敷 元屋敷尻リ 元屋敷下平 家ノ谷 家ノ谷下ノソ子 上高ヤブシ 高ヤテ
 高イテ左平 高イテ右平 高ヤブレ ○堀リ 大成 上り廻下以後 上り廻上平 上り廻上ミ以後 上り廻 上り廻奥
 上り廻下タ 植ノ切 参欽場下タ 参欽場上ヘ 細田ケ廻 坂根堀 坂根奥 坂根奥中ソ子 坂根下中ソ子 坂根柳ケ以後
 柳ケ以後 才カ崎 才ノ崎 坂根
 23 坂根 才ノ崎 三郎谷
 24 長正原 竹ノ内 竹ノ内下モ 門ノ堀 スキノサキ 桜谷
 25 漆ケ谷尻上ミ平 漆ケ谷 小堀リ上ミ 小堀リ 小堀リ下モ 大上ミ 大成 鈴廻頭 鈴廻 上ミノ村 藏ノ前
 新在屋 藏本 長右エ門細 上ミ村構詰 門ノ堀リ

26	大下モ かじや烟 かじや林 上ミ家ノ奥尻リ 岩穴廻尻リ 上ミ家ノ奥岩穴廻 上ミ家ノ奥四平 上ミ家ノ奥
27	新屋烟 新屋 下モ新屋 新屋曾根 中前 ドモ家ノ奥平 下モ家ノ奥 平田 下モ家ノ奥東平
28	三百尻リ 下タ山崎 千櫛 山崎 中バセ 乾黄田 新屋 家ノ奥曾根 上ヘ山崎 家ノ奥 下モ家ノ奥 細廻曾根 細廻南平 細廻 下モ家ノ奥西平 下モ家ノ奥 柳田西平 种田 平田
29	打屋 砂田上ヘ 砂田 タイセ平 砧櫛 下大廻 上大廻 金谷北平 金谷 時 ^ハ 金谷家ノ上ミ 金谷新田 金谷時戸
30	金谷 金谷新田 高清水 金谷墓ノ下モ 金谷北平 墓ノ奥 谷奥木戸ノ北平 金谷家ノ下モ 金谷仲 谷奥 金谷家ノ上ミ 金谷木戸下モ
31	真奥 金谷奥 金谷真奥 木壓三角谷 金谷南平 金谷真奥日フリ谷 法ケ谷
32	坂ノ谷 金谷松右エ門屋敷 金谷久野越尻リ 久野越尻リ 金谷南平 金谷家ノ向 金谷中ノ向 金谷ノセガ谷 金谷合持谷 合持谷 野山合持谷
33	時戸向 金谷南平 金谷 上早山尻リ 上早山 タイセ平 砂田 下早山尻リ
34	金クソ 橋ケ谷 牛ケ谷東平 牛ケ谷西平 牛ケ谷 牛ケ谷北平 牛ケ谷南平 中ノ谷
35	牛ケ谷 中ノ谷奥
36	橋ケ谷 橋ケ谷右平 橋ケ谷左平 橋ケ谷奥
37	木山橋 長烟 金打川端 金打手下タ 金打井手 ^ハ 鉄穴市 金井 金打 冲ノ原
38	細谷 細谷小谷以後 細谷西平 細谷尻リ 龍ケ上ヘ 杉ノ原上ミノ切 杉ノ原上ミノ切下モ 杉ノ原
39	細谷
40	岩グロ 糸谷岩グロ 糸谷東平 糸谷 糸谷イムガ谷 糸谷西平
41	糸谷東平 糸谷 糸谷森原 糸谷西平 松ヶ谷 松ヶ谷美
42	川平 森ノ本 下モ川平 川平大以後 清ノ以後 大以後 馬ケ測
43	下山向 清 小清 大滑
44	清 下モ清 小屋谷 小ヤ谷平 大滑 下モ山ノ下モ 下モ山上ヘ 下モ山 下モ山家ノ上ミ 下モ山上ミ 下モ山ウ子
45	宇根山 宇根山田ノ商半
46	岩穴頭 岩見瀬 岩見瀬子下モ城ケ廻道上ヘ 下モ城ケ廻道上ヘ 下モ城ケ廻 バガツフ 上城ケ廻 上城ケ廻道上ヘ 母ケ測道上ヘ 清尻リ 母ケ測上ヘ
47	川原 馬ケ測 森ノ本 森ノ平 母ケ測上ヘ 森ノ上 曾根 後廻家ノ上 後廻 後谷 後谷ボタ廻 後谷曾根 後谷下モノ切 後谷東平 稲谷西平 後谷小屋ノドモ 次郎左エ門以後 後谷油木以後 後谷大烟ケ
48	後谷清水以後 後谷頭 西ノ廻 後谷西ノ廻 ソリ田上ヘ 小廻西平 宇根山 小廻頭 小廻東平 境ノ以後 後谷小廻 照ノ尾 清水以後 後谷横手上エ 大烟ケ廻ノ尾 後谷 清水以後道下タ
49	上ミ川原 下タ岩田 空岩田 又兵衛堀 三窪田 梅ノ木 山崎 森ノ本 ソ子 入道原 下モノケ市 山本 山根 上垣内 下ノ〇 〇〇 山根家ノ上エ 下モノ半
50	中屋 坂根下モ平 坂根家ノ下モ 坂根 上坂根 宮ノ前 坂根立平 坂根立平上ヘ 坂根廻 坂根家ノ上ヘ 廻頭 新屋敷 宮ノ下タ 坂根 横手 ^ハ 上 宮守根
51	境ノ以後 向原 長以後 高橋 機田原 大前 下權田原

大字塩田

1	川向下モ 川向 川向上ミ 下モノ谷 下モノ廻 本家ノ平 ふけ 長烟 前堀 川根 本屋
2	下ノ前上ミノ堀リ 平前井手端 平前 川端 平下モ道下タ 下ノ前下モ堀リ 平ノ前川原 道下タ 大前 平前川端 堂前 ケ市
3	才峰 才峰道下タ 坂本上ヘ 坂本下タ 坂口 坂口家前 坂元 坂口頭 後廻 堂ノ奥 村境奥 村境
4	家奥 平家奥 平 平家ノ上ヘ 平道上ヘ 平家ノ下モ 平ノ上ヘ
5	柴原 橋ケ谷 イガキガ廻 下楊ケ谷尻 橋ケ谷下モ 柳ケ谷上ミ 向 門田 桜リ田 桜リ田上ヘ下モ 堀田上ヘ 小谷尻リ 横畑 堀田上ミ 四久保田 井手谷日南平 下ノ廻 高法 家ノ上ヘ 下モノソラ上ヘ 下モノソラ 井手谷下タ 梅ノ木ドタ 道下 道壠 井手谷 家ノ前 門ノ上ミ 上ミノソラ
6	下門田 上門田右平 門田奥 門田 門田平 上門田奥 門田左平奥 門田下モ 廣ノ下タ 下モ堀 中堀 上ミノ堀

- 平床下タ 平床 沢田 檜烟 油木エゴ尻リ 大エゴ 大成 中ノエゴ 大成ル 井手谷奥 檜烟山 奥
 7 川平下タ 初う根 向田上柴 向田上ヘ 向田上ミ 向田 向下モ 須里田向 井手谷尻リ 谷尻リ
 8 上柴 小堀リ屋敷上 小堀谷尻リ 小堀リ 小堀リ谷西平 小堀リ谷中そね 小堀リ谷 小堀リ谷奥 松ノ系ニ
 上小堀リ谷奥 小堀谷中ノ切 小堀リ谷下モノ切 小堀谷左平 秋場山 小堀リ谷東平 小堀リ谷東奥
 9 向 向上ミノ堀リ 小堀リ 井手下タ 小堀ノ前闇ノ内 小堀リ前 小堀四欽場 小堀前川原 川端 岩だな 岩根
 上小堀 下中原家ノ上ヘ 塚ノ庭 下中原 下中原下モ道上ヘ 下中原道上ヘ 塚ノ下タ 下中下モ道下タ
 10 中小屋 上中原繩手上 上中原道上ヘ 上中原 中原 上仲原川原 下ヶ市 下中原向 川平 下ヶ市前
 11 大成ル 小屋ノ繩 榆谷尻リ下モ 井手下タ 井手下タ上ミ 井手上柴 山根 烟下モノ楓 煙平 烟子原上ヘ
 船井手端 川原 家ノ上ミ 烟中ノ堀リ 煙川付 煙 烟上ミノ堀
 12 榆谷尻リ 榆谷尻リ下モ 榆谷 家ノ上ヘ 榆谷尻リ西平 太平岫 野山ケ谷西 野山ケ谷 榆谷中ソ子 榆谷東平
 家奥越 足水谷 足水谷奥 本谷
 13 宮廣 宮原道上ヘ 宮原 宮ノ前 宮下 烟山上ミ 榆山下モ 釜ノ前 大烟 大烟上ミノ堀 大烟中ノ堀 北ノ堀リ
 大烟川畠 中屋 大烟臨 大烟井手上ヘ 正ヤ田上ミ 正ヤ田中 正ヤ田下モ 烟繩子 烟子原 烟子原家ノ前
 榆井手上ヘ 宮谷尻
 14 宮谷入口東平 宮原墓堀リ 墓堀リ 横手 横手ドモ 横手道下タ 横手ノ上ヘ 三軒屋南平 三軒屋北平 三軒屋奥
 宮谷右平 三軒屋 下堀リ 岩田 家前 家上 宮原墓ノ堀リ 下堀 横手向
 15 ドモ小堀リ 向川端 下小谷上ミ谷尻リ 下小谷上谷 下小谷 下小谷中切 下小谷上奥 下小谷上谷奥
 上ノ谷左平 中谷奥 下小谷中谷 中ソ子尻リ 奥
 16 大田下モ 上小谷井手下タ 上小谷尻リ 上小谷 上小谷上 上小谷西平 上小谷中ノ切
 17 宮谷中屋敷 中屋敷 大田尻 大田 大田下モ 中屋釜 馬ケ谷
 18 場ケ谷西平 六塙ケ谷 穴場ケ谷尻リ 馬ケ谷尻リ 馬ケ谷 場ケ谷 中谷尻リ 宮谷中谷 家ノ上ヘ 中谷尻リ下モ
 中谷 場ケ谷下モ 場ケ谷中ノ切 場谷上リエゴ 場谷本谷奥 場ケ谷田平 馬ケ谷松ノエゴ
 19 蛇貫 日南堀リ 蛇貫家ノ前 大田西平 下栗谷 下栗谷入口 下栗谷奥 蛇貫東平 蛇貫西平
 20 上ミ栗谷 栗谷 栗谷尻 川平 蛇貫尻リ上 蛇貫上ミノ堀リ アスナ釜 アスナ釜上 アスナ釜下モ
 21 アスナ釜 本坂向 馬場屋敷 柳ノエゴ 馬場屋シキ上ミ 峰ノ向 柳ケ谷 長通 爺堀リ 伸新田 奥新田
 タキガスラ入口 繩ノエゴ 宮谷 本坂上ミ
 22 タキカシラ釜 宮谷瀧頭 瀧頭雪地平 瀧頭日南平 瀧頭 タキカシラ奥
 23 塚田 ケ市 仲ノ堀リ 山根田 五郎田 下モ 舞三田 一九田 大四通 小六通 小四通 鮫次屋出
 連ンタエ 連ンタエ下 清ノ上ヘ 柿添 西垣 川原 宮ノ上ヘ
 24 鈴谷東 鈴谷 鈴谷西平 鈴谷西 鈴谷下モ 鈴谷家ノ前 家ノ上ヘ 鈴谷尻リ 家奥 家ノ奥西平 家平 荒神平
 新屋家上ミ 新屋上ミ 新屋 新屋家下モ
 25 家奥 海地 海地下タ 家奥尻リ 家奥尻リ井手上ヘ 家奥尻リ井手下タ 寺ノ前川原 ウ子 寺谷尻リ 寺ノ上ヘ
 寺ノ下モ 寺ノ前
 26 寺谷 寺谷ノ裏 寺谷西平 寺谷東平 寺谷尻リ 寺谷尻リ中
 27 寺谷尻リ 寺谷尻リ上ミ 早田 仲垣下モ 墓ノ上ヘ 家前 家ノ上ヘ 仲垣 小堀谷
 28 早田 早田下タノ切 堂ノ前 堂庭 小カケ 仲田 稲田 向上ヘ 向下タ 宮田 石橋 ソリ田
 29 寺烟ケ 季トフ谷 季トフ谷尻 下季トフ谷 上季トフ谷 上木戸谷 木戸谷 下木戸谷
 30 梅ノ木家ノ前 家ノ前 新田 大カケ下タ 大カケ上ヘ 梅ノ木谷尻リ 梅ノ木谷尻リ上ミ 宮谷 梅ノ木谷
 梅ノ木谷尻
 31 宮ウ子 宮ノ前 宮廣 宮谷尻西平 宮谷東平 宮谷尻 堤谷西平 井手ノ尻リ 堤谷下モノ堀リ 堤谷 井闌ノエゴ
 堤谷東平 堤谷奥 堤谷宮谷共
 32 横ノ木原 カシノキ下ノ堀リ カシノキ川原 横ノ木井手下タ カシノキ中ノ堀リ カシノキ井手下モ
 横ノ木井手下タ 新田 新田上ミ 井手下ミ カシノキ道上ヘ カシノ向 カシノキ道下タ 家ノ駒 鈴床 鈴原
 33 川畠 川畠上エ 川平 フラベケ谷尻リ 平部ノ谷尻 井闌ノエゴ 堂床 上平部 上ミ平部尻リ フラベケ谷
 下平部 中平部 平部ケ谷 下平部山平 上平部西平 中平部西平 下平部東平 下平部西平 下モ平部 下平部奥
 下モ平部ケ谷

34	ウ岬ノ上ヘ 田中上ヘ 川平 家ノ上ヘ 上ヘ田中 家ノ前 家ノ前ドタ 門ノ下モ 田中上エ 山烟 田中 田中家ノ下モ 田中下モ 隆居 向田 田中繩手下ミノ堀リ
35	井手ノ谷尻川端上ミ 井手谷尻川端 井手ノ谷尻 上井手ノ谷尻リ 田中上エ 長三屋敷 長三屋敷下タ 高畔 高畔上堀リ 小寺下タ 小寺上 小寺
36	橋ノ下モ 高畔 城ケ谷繩手下モ 城ケ谷家ノ脇 城ケ谷 城ケ谷尻リ 井手下タ 城ケ谷上ミ 家ノ上ミ 城ケ谷尻リ上ミ 廣ノ下タ 家ノ前 下モ 家ノ脇 荒神ノ脇 挿水谷尻リ 揿水谷 檻ノ木原 家ノ向平
37	ハゲラ向ノ谷 向ノ谷 中新田 家ノ上ミ谷尻リ 塙谷尻リ 谷尻リ 堀谷奥 堀谷 家ノ上ミ谷 門ノ上ミ 家ノ上ミ 家ノ前 鐵治屋奥 家ノ下モ 四久保田 セドノ谷
38	田平 篠谷 中ノ谷 ハゲラ ハゲラ向 ハゲラ上ミ 篠谷尻リ 久野越 久野越東平 ナメラ谷 本谷 櫻ヶ谷 本谷新田 本谷典
39	坊主谷 ケ市 ケ市入口 ケ市谷奥 谷尻リ 上ヶ市川端 川端 ケ市谷尻 イモズ ウ子畠 エモズ
40	畠田 井手上ヘ 家ノ奥 畠田家ノ下 畠田家ノ上ミ 畠田川廻リ 畠田家前 畠田上ミノ堀リ 上ミノ谷 谷尻リ 山根 下谷 原下モノ堀リ 下モ谷尻 原 原下モ 三鉄場 原川堀リ 原川前ノ堀
41	道下タ 原上ミノ堀リ 原家ノ上ミ 原上ミ 道上ヘ 空堀リ ウ子畠ケ ウ子 畠ケ前 ナメラ谷
42	平九郎屋敷上ミ堀リ 平九郎屋敷 平九郎屋敷上 上ミ谷東平 上ミ谷奥西平 篠谷西平 家ノ上 下 向上ミ 下向 家ノ前 山本家上ミ 山本門 山本 上ミノエゴ 番ケエゴ
43	道下タ 下新田 下新田上ヘ 中新田 下ノ烟 エノフヤ谷 家ノ奥 家後 一里塚 家輪 川原 下ノ堀リ 前ノ堀リ 中ノ堀リ 上ノ堀リ 家上ミ ソ子 一里山 一里塚谷 石橋 一里塚谷尻リ
44	柄谷奥 十七原 根谷尻リ上ヘ 柄谷尻 六荒神 柄谷尻リ上ミ 乙型敷
45	十七原 十七原下タ 法月原
46	中ノ切 中ノ切新田 中ノ切川原 中ノ切井手下タ 中ノ切向 向田 向田川堀リ 井手下ヘ 柄ヶ谷
47	川端 家ノ前 梶ヶ谷ドモ 門煙 家脇 橋ヶ谷 家後 ウネ烟ケ ウ子烟ケ 橋谷家ノ前 橋谷家ノ前下モ 柄谷家脇 柄谷奥 松屋敷上 松屋敷 家下モ 松屋敷下モ
48	屋敷上 鐵治屋廻尻 柄谷 伊床下タ 大槻尻リ 小ヤ谷向ノ堀リ 道下タ 大槻下モノ切 大槻 大槻道下タ 大槻中ノ堀リ 大槻尻横手端 大槻上 伊谷尻上ミノ堀リ 伊谷尻リ
49	鉄穴堀リ 立岩尻リ 鉄穴 立岩 金穴 立岩奥 鉄穴奥
50	石橋 一里塚谷 鐵治屋上ミ向 鉢次屋下モ 鉢次屋上ミ向上ミ 川端 カズヤ上ミ川向 スベ坂道上ヘ 辻坂 辻坂中堀 家○
51	竹ノ内 竹ノ内下モ向 ハカノ堀リ 竹ノ内向 ツヅラ谷尻リドモ堀 ツヅラ谷尻リ ツヅラ谷奥 ツヅラ谷 ツヅラ谷尻リ上ミ 鐵治屋 ツヅラ谷上ミ
52	棘塚奥 才ノ跡下モ 一里塚谷
53	スベリ坂道下タ 道下タ 中鳴上ヘ スベリ坂中鳴 辻坂下タ 道上ヘ 辻坂上ヘ カナヤゴ谷東平 カナヤゴ谷尻川上 カナヤゴ谷奥 カナヤゴ谷尻リ カナヤゴ谷家ノ廻
54	堀田 堀田上ミ 堀田家ノ上ヘ 堀田繩手下モ フナノ上 フナノ家前山 フナ 日南ノ上ヘ フナ繩手下モ フナ家奥 太平上ミ 太平屋敷ノ家ノ上ヘ 太平家ノ脇 太平上ヘ 太平屋敷 太平屋敷下タ 川向エ 太平下モ 太平家上以後 スベリ坂川向 スベリ坂向 川向ヘ
55	坂根堀リ 坂根川端 坂根道上ヘ 坂根奥 坂根 坂根谷 坂根谷奥 堀田奥 錦塚
56	川堀リ 家ノ堀 上堀リ 井手下タ 棚手上ヘ 井手上ヘ 會所 棚塚
57	川原 スクモツカ 堀谷尻リ道下タ ケタ根 谷川端 カナヤゴ谷尻リ 堀谷 堀谷門田 スクモ山西 スクモ山 糠場 堂ノ堀 門畠 門田 門畠下タ 本谷 棚塚中 堤谷門

補 遺

大字須賀

275	古墳・古墓	市之瀬遺跡	市之瀬	墓地・他	1返10m方墳 6基以上の五輪塔 石鉢出土
274	和鏡出土地	須賀菴田和鏡出土地	菴田	畠	草跡(散菊双鳥鏡)

大字下阿用

295	散 布 地	仲田前石器出土地	中ノ坪	工 場	石器出土
-----	-------	----------	-----	-----	------

大字川井

294	古 墓	石ヶ平古墓	石ヶ平	山 林	丘端側部の小段 五輪塔2基あり 近世か
-----	-----	-------	-----	-----	---------------------

大字山田

273	古 墓	石崎古墓	石崎	墓 地	五輪塔6基以上 宝鏡印塔4基以上 近世初期
-----	-----	------	----	-----	-----------------------

大字董賀

296	古 墳	西方寺上古墳群	寺ノ上	山 林	円墳2基
297	横 穴	西方寺上横穴群	寺ノ上	*	2群あり 各5穴か
298	城 牛	立山城戸跡	立山	*	堀・木戸跡・曲輪1あり

大字仁和寺

299	散 布 地	ケ市遺跡	ケ市	畠	遺物包含層、弥生式土器
-----	-------	------	----	---	-------------

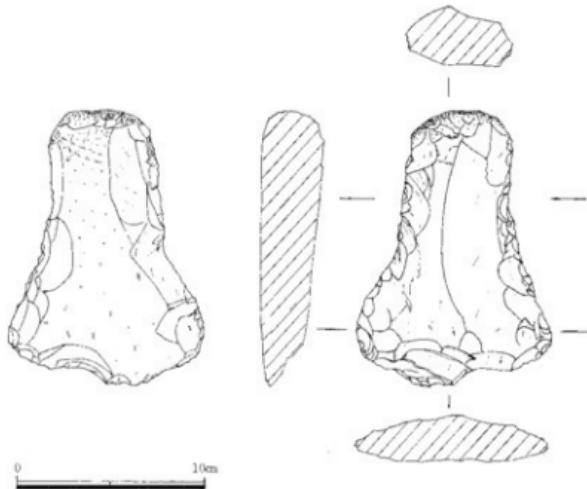


図7 石 鋏 (下阿用・仲田前出土)



遠 景



五輪塔石材



石塔埋没状況



長福寺古墓



中新田たたら跡

発掘状況



近 景



トレンチ壁面



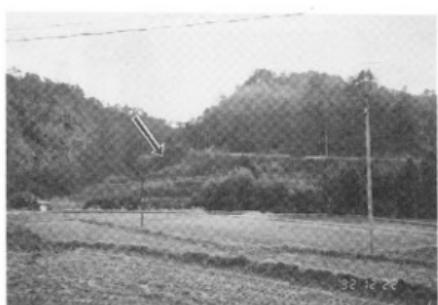
平ノ前出土石器



スクモ塚お堂内の石器



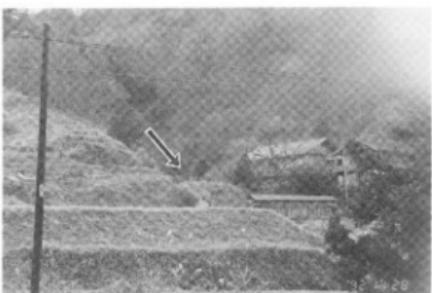
箱淵地蔵堂内の石器



清瀧社の古石塔



正覺寺跡と五輪塔



塩田の一里塚



平ノ上出土の和鏡



伝世和鏡(村上藏)



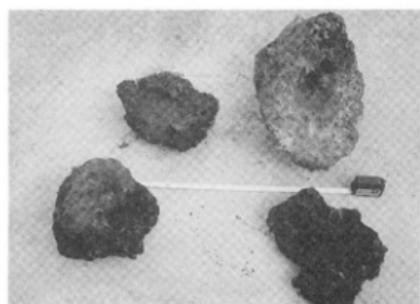
箱洞鉢還製鉄跡



岩根たたら跡



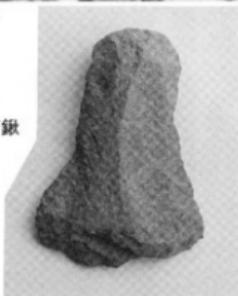
愛宕社奉納の初銚
塩田鉢谷たたら跡と



家の脇鍛冶跡採取の椀形滓



宮谷横手炭窯跡



下阿用・仲田前出土の石鋤

遺跡詳細分布調査報告書
大東町の遺跡 V
—篠瀬・塩田—

1993年3月

発行 大東町教育委員会
島根県大原郡大東町大字大東1673-1
印刷 曽田印刷
島根県大原郡大東町大字大東1017-1

